

週間展望(4/18～4/24)

～ WEEKLY FORECAST ～

調査課

菊川 弘之

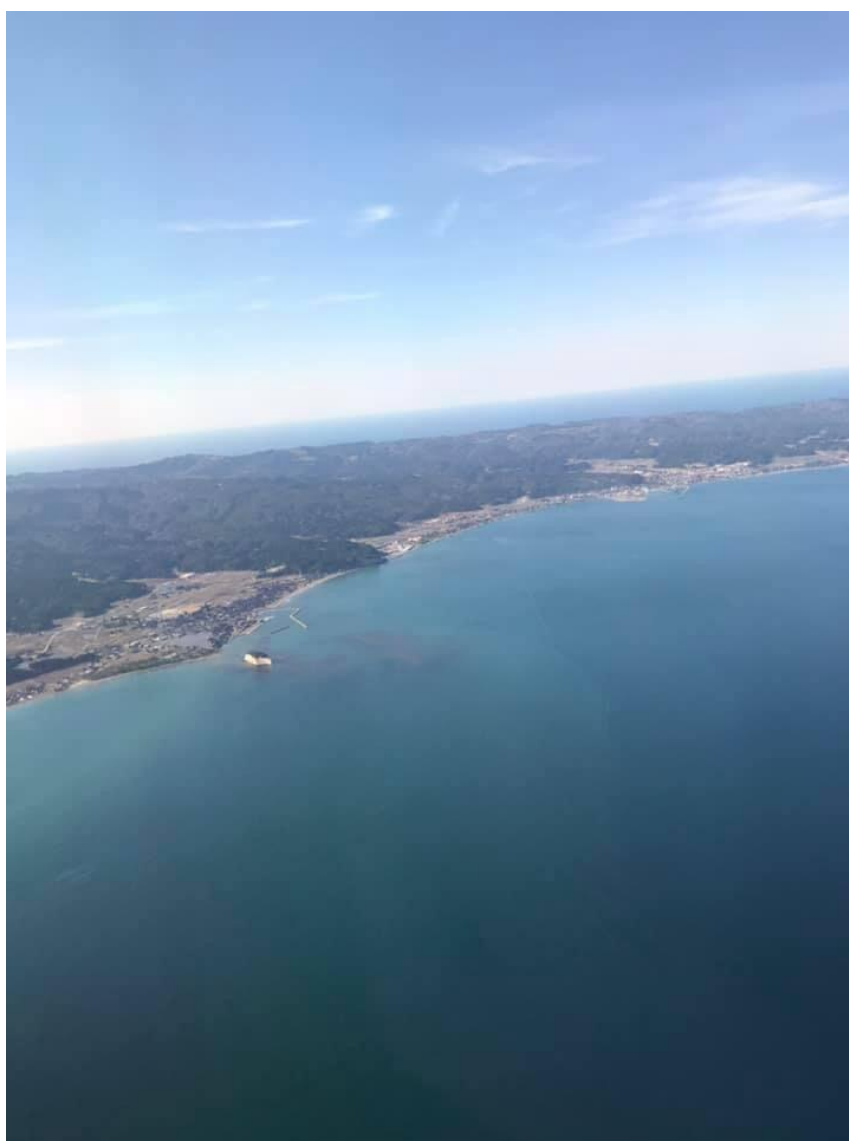


PHOTO by KIKUKAWA

当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはおりますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

週間展望(4/18～4/24)

～ ドル円～

調査課

菊川 弘之



【前週レビュー】

- 先週レポートで「米国は40年ぶりのインフレで、今後、かなりの金利引上げが不可欠な一方、禁じ手を実施した日銀は、金利を上げれば債務超過で自身の首が絞まる可能性が浮上する為、金利を上げられないという投機的な仕掛けを招きやすい地合い。今週は米国で多くのマクロ経済指標が予定されており、抵抗線の125円を明確に上抜け踏み上げとなれば、5円程度のレンジアップへ」としたが、先週のドル円は、続伸。20年来のドル高・円安水準となった。

ドル円、上値試し

- 12日に発表された3月の米消費者物価指数は前年比+8.5%となり、約40年ぶりの高い伸びとなった。事前予想の+8.4%や前回の+7.9%を上回った。変動が大きい食品とエネルギーを除いたコア指数は+6.5%となり、事前予想の+6.6%を下回った。コア前月比は+0.3%となり、事前予想や前回の+0.5%を下回ったことで、市場の一部では米国の物価上昇率はピークアウトが近づいているとの見方も出ている。もっとも高水準を維持しており、米連邦準備制度理事会(FRB)による金融引き締めに向くスタンスに変化はないとみられ弱材料視されず。
- 13日に日銀の黒田総裁は、「現在の強力な金融緩和を粘り強く続ける」と緩和策を継続する姿勢を示したことで、125円台半ば付近でのみ合いから一気に126円を突破して、126円台後半まで上昇。
- カナダ中銀や、NZ準備銀行(RBNZ)が政策金利を引き上げ、日本との差が明確になっている。
- 先週末のドル円は、グッドフライデーで休場。
- CFTC建玉明細(4/12現在)によると大口投機玉は、111,827枚の売り越し。前週(103,829枚の売り越し)から拡大。

当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

週間展望(4/18～4/24)

～ドル円～

調査課		GANNのアニバーサリーデイト								
			2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
菊川 弘之	3月	25-31日	3月26日	3月29日		3月26日	3月25日	3月24日	3月31日	3月28日・31日
	4月	1-5日					4月5日	4月1日		
		10日		4月11日		4月23日	4月10日			
		29日	4月30日	4月28日	4月24日	5月2日・4日	4月24日	4月29日	4月23日	
	5月	5日			5月11日		5月6日	5月7日	5月3日	
		10-14日	5月14日		5月17日	5月21日	5月13日		5月13日	
		21日					5月21日			

【今週見通し・戦略】

- 既存レポート「市場分析レポート」(3/25付)や、STOCK-VOICEでお話したように、GANNのアニバーサリーデイト(変化が起こり易い日柄)が、4月～5月GWに集中する。今年も3月末に相場の節目を形成している。GWには、FOMC(5/3-4)も予定されており、トレンドの加速or反転には注意したい時間帯に入っている。
- 「黒田シーリング」と見られた125円水準を超えても、当局からは口先牽制しかなく、投機筋に見透かされている感触。黒田日銀総裁任期(2023年4月)を控えて、これまでの黒田総裁政策の否定に繋がるような動きは採り難い。
- 経常収支を構成する第一次所得収支の黒字増加(増加率+231.2%)が顕著だが、これは対外金融資産から生じる利子や配当金などで、経常収支をみる限り、日本は輸出で稼ぐ構造から対外金融資産で稼ぐ構造へと変化したことが円安が株高につながらず、「悪い円安」懸念が高まっている一因。日本は原油や液化天然ガス(LNG)などのエネルギーのほか、多くの食料も輸入に頼っており、円安が進行すると輸入コスト増で、業績悪化・末端小売の値上がりの悪影響が懸念されている。
- 米国は40年ぶりのインフレで、今後、かなりの金利上げが不可欠な一方、禁じ手を実施した日銀は、金利を上げれば債務超過で自身の首が絞まる可能性が浮上するため金利を上げられず、日米金融政策の違いが明確になっている。
- ただし、CFTC建玉明細では、大口投機玉の円売りドル買いポジションは、膨れ上がっており、そろそろ、過熱感が意識される水準にもなっている。
- ドル円の、ここ20年間の年間レンジで最も大きかった値幅を当てはめてみると、ドル円の上値は、136円程度。これは市場で意識されている2002年1月高値の135.1円と重なる。一目均衡表からは、V=128.96円、N=131.72円、E=135.58円可能。既に11陽連で上昇しており、短期的な買われ過ぎ感に対しての調整にも注意したい時間帯に入る。下値支持は120円～125円。120円を維持する限りは、上値試しが継続見通し。

当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

週間展望(4/18～4/24)

～ 貴金属市場 (金：GOLD) ～

調査課

菊川 弘之



【前週レビュー】

- 先週レポートで«「悪い円安」が加速した場合、「円建て金」の優位性が注目されそうだ。1990年代はNY金上昇しても、円建て金は円高進行で上値が抑えられ、世界の中で相対的に最も弱い金価格となったが、悪い円安が進行した場合、NY金の上昇に加えて、円安ドル高が加わり、相対的な割安感の修正と共に、世界で最も強い金価格となるかもしれない。買いを主体とした戦略を継続したい»としたが、先週のNY金(6月限)は、ロシアとウクライナの戦闘が長期化する中、インフレヘッジや安全資産として買われ堅調となった。3月14日以来の高値1981.44ドルを付けた。JPX金先限は円安も支援要因となり、上場来高値8076円を付けた。

大幅続伸

- プーチン大統領は12日、ウクライナとの和平交渉は暗礁に乗り上げたとの認識を示すと同時に、ウクライナにおける「崇高な」目的を全て達成すると表明。欧米諸国がロシアの戦争犯罪を非難するなか、ロシアとウクライナの和平交渉は行き詰まった。欧州安保協力機構(OSCE)は、ロシア軍がウクライナで戦争犯罪と人道犯罪を犯した証拠が裏付けられたとする専門家チームの報告書を公表。一方、ウクライナ国防省は11日、ロシア軍はウクライナ東部のドネツク、ルハンスク両地域に対する再攻撃の軍備増強をほぼ完了したと明らかにした。ウクライナはロシアの黒海艦隊旗艦の巡洋艦モスクワを攻撃、沈没させた。またウクライナ軍がロシア西部ブリャンスク州を攻撃した。今後はウクライナの反撃も激しくなると予想される。
- 先週末のNY金(6月限)は、グッドフライデーで休場。
- CFTC建玉明細(4/12現在)によると大口投機玉は、254,287枚の買い越し。前週(245,541枚の買い越し)から拡大。

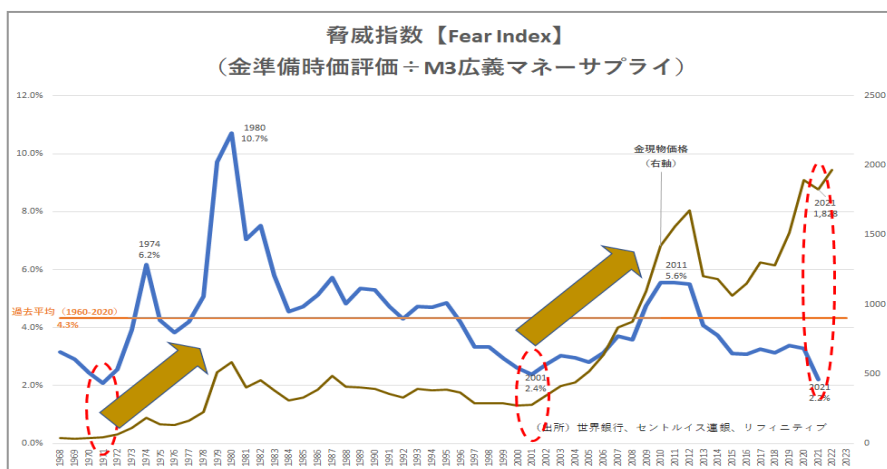
当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

週間展望(4/18～4/24)

～ 貴金属市場 (金：GOLD) ～

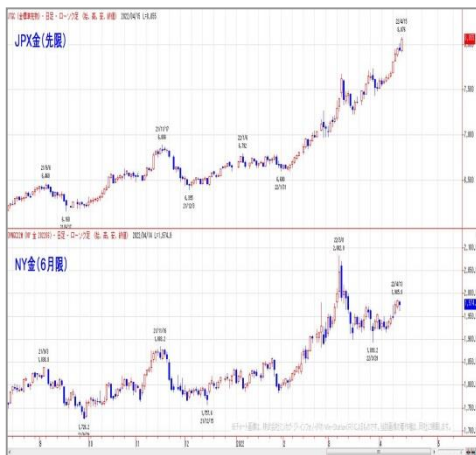
調査課

菊川 弘之



【今週見通し・戦略】

- チェースマンハッタン銀行を経て、アブダビ投資庁(ADIA)の商品部で活躍したジェームズ・ターク氏は「金の虫」との異名を持ち、ドル基軸通貨体制や、米財政問題、日本の年金を始めとする国家財政問題にも着目してきた貴金属アナリストの第一人者。
- 資産保全と運用手段における金の位置付けを語らせたら、彼に勝る人物はいないとも言われているが、その彼が金相場の水準を見るのに注目しているのが脅威指数(Fear Index)。
- 「米国の金準備高(時価評価)」÷「M3(広義のマネーサプライ)」が計算式。
- 歴史的にみて、この指数が2%台に入れば、概ね底値圏と判断できるというのが経験則だ。金価格(円建て・ドル建て)は史上最高値圏にあるものの、脅威指数から見ると底値圏と言えるだろう。
- ドルの信認を高めるためには、①金準備を増やすか、②金相場が大きく上昇するか、③マネーサプライが大きく減少するか、だが、②のシナリオが最も高いのではないかとジェームズ・ターク氏曰く、日本の投資家にとって、既に始まっている円の崩壊(人口統計・ドル依存)によって、様々な影響を受ける。遠くを見据えた投資する個人は、金を通して通貨危機で大きく儲けるだろうと述べている。
- 「悪い円安懸念」が高まりを見せる中、円建て金の優位性も意識されている。



当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

週間展望(4/18～4/24)

～ 貴金属市場 (白金 : Platinum) ～

調査課

菊川 弘之



【前週レビュー】

- 先週レポートで「白金は燃料電池車(FCV)など脱炭素で有力視される水素技術に不可欠で、需要増予想が強い中、実需筋が在庫当てに走っている可能性。中国ではガソリン車用排ガス浄化触媒で、高値のパラジウムから安い白金への代替も進んでいる。米欧の対ロ制裁でパラジウムはロシアからの供給に懸念がくすぶる中、排ガス浄化装置について、白金への仕様変更は数年単位の時間がかかる」と見られるが、西側諸国がロシアへの資源依存を避ける方向に動けば、中国以外でも代替が進む可能性がある。ロシアの白金生産は世界の1割超で、パラジウムより依存度は低い。米先物取引所在庫を引き出す動きも21年夏以降続いており、中国の過剰輸入やロシア問題が長引けば、白金価格を押し上げる可能性がある。ボリンジャーバンドでは、「金買い・白金売り」でのバンドウォークが継続しているが、4月のNY白金の月間騰落率は、買い方有利な時間帯。4月のNY白金950ドル以下は、中長期的な買い場となるかもしれない。」とした。先週のNY白金(7月限)は、ウクライナの戦闘長期化による景気の先行き懸念を受けて戻りを売られたが、インフレ懸念の高まりや原油・金の堅調が下支えになった。
- JPX白金先限は、3月25日以来の高値3970 円を付けた。
- 先週のNY白金(7月限)は、グッドフライデーで休場。
- CFTC建玉明細(4/12現在)によると大口投機玉は、6,415枚の買い越し。前週(11,290枚の買い越し)から縮小。

当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

週間展望(4/18～4/24)

～ 貴金属市場（白金：Platinum）～

調査課

菊川 弘之

ウクライナ紛争を受け、各取引所ロシア産白金族メタルの受渡制限の動き

LPPM（ロンドン・プラチナ・パラジウム市場）	ロシアのPGM精錬所クラストヴェトメット、プリオクスクのブランドKrastsvetmet、PZCMの白金、パラジウムのグッドデリバリーの認証を当面停止すると発表。新たな通知があるまで4/8以降に両精錬所から生産された白金とパラジウムのバー及びスポンジ（粒状）はグッドデリバリーの認証がされない。それ以前に精錬された物については今後もグッドデリバリーまたは認定スポンジとして扱われる。
NYMEX（ニューヨーク・マーカンタイル取引所）	NYMEXは、4月8日以降にロシアの2つの精錬所で生産されたプラチナとパラジウムは取引所で取引できないと発表。4/8以降にクラストヴェトメットとプリオクスクが生産したメタルは、新たな通知があるまで証拠金への充当や受渡しの対象にはならない。
OSE（大阪取引所）	LPPMがロシア製の白金及びパラジウムのブランドを認定リストから除外する措置を講じたことを踏まえ、当該ブランドの当社における受渡供用品としての指定の取扱いについて取消しを含めた対応を検討中。

【今週見通し・戦略】

- 国際通貨基金（IMF）のゲオルギエフ専務理事は、今年と来年の世界経済の成長率見通しを引き下げると明らかにした。IMFは今週、最新の見通しを公表するが、以前からロシアのウクライナ侵攻と西側の対ロシア制裁を受けて見通しを下方修正することが伝えられており、概ね織り込み済み。
- プラチナ・パラジウムの国際的な認定機関LPPM（ロンドン・プラチナ・パラジウム市場）は「グッド・デリバリー」精錬所のリストを見直し、ロシアの製錬所2社（KRAS TSVETMET社とプリオクスキーPZCM社）の認可を停止した。LMBA（ロンドン貴金属市場委員会）は、これまでグッドデリバリーリストからロシアの金・銀の製錬所6社の認可を停止している。西側諸国の対ロ制裁が続く見通しで、今後の認可の行方次第では、受け渡しに伴うスクイズ懸念を材料とした投機的な動きが出るリスクもある。
- 金と比べて、市場規模の小さいPGM（白金）系市場は、流動性リスクがある点に注意したい。
- 中国汽車工業協会（CAAM）が発表した3月の自動車販売台数は前年同期比11.7%減の223万台となり、3ヵ月ぶりに減少した。新型コロナウイルスの感染防止対策が影響した。2月は18.7%増だった。CAAM幹部は「最近の新型コロナ流行は非常に深刻で、3月の数字はあまり良くなかった。現時点では4月も大幅な改善は見込めない」と述べた。自動車販売の伸び悩みが続くと、上値を抑制要因になる。
- 一方、金に対しての割安感が下値支持要因。950ドル～1000ドル水準は、中期的な底値圏。

デリバリー認可見直し

当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

週間展望(4/18～4/24)

～ ゴムRSS 3号先物～

調査課

菊川 弘之



【前週レビュー】

- 先週レポートで《上海ゴムは中国各地でロックダウンが実施され工場稼働停止等も影響して上値は重い》、国内は円安が下値を支えている。中国政府は、今年の経済成長率を5.5%としている。昨年の8.1%成長から急激な減速。5日に発表された世界銀行の予想は5.0%。中国のゼロコロナ政策、米国の金融引き締め、ウクライナ情勢などが、中国の景気回復の足を引っ張るとしている。中国は、世界最大の天然ゴム消費国であり、同国景気減速となれば、天然ゴム価格の上値抑制要因。13日～15日のソクラン(水祭り)を終えると、産地では、ウィンタリング(落葉期=減産期)明けが織り込まれてくる。RSS3号先限は、250円を割り込んでくると、ダブルトップが意識される》とした。先週のRSS3号は、上海ロックダウンを受け一部大手自動車メーカーが来月半ばまで工場稼働を停止するとの報もあり、上海ゴムが上値が重かった一方、JPXゴムは産地高+円安で、売り方の買い戻しを巻き込み上昇。
- 全国生ゴム営業倉庫在庫は、3月31日現在11,740トン(前旬比25トン増)。3月下旬の入出庫は入庫574トン、出庫549トン

【今週見通し・戦略】

- 中国汽车工业协会(CAAM)が発表した3月の国内自動車販売台数は前年同期比11.7%減の223万台となり、3カ月ぶりに前年同期比で減少となった。新型コロナウイルスの感染拡大により、上海市などがロックダウンを導入したことにより、販売から生産まで幅広く影響が出たことが背景。中国当局が商品価格を抑制に動いていることや上海市のロックダウン(都市封鎖)から、上海市場には積極的な買いは入りにくい地合いで、東京市場は為替次第の流れか？

当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

週間展望(4/18～4/24)

～ 穀物市場 (大豆・コーン) ～

調査課

菊川 弘之



【前週レビュー】

- 先週レポートで《シカゴコーンは、(～中略)。大豆同様、期末在庫率は一桁台で押し目買い主体の戦術の時間帯》としたが、先週のシカゴコーンは、全限月が一代高値を更新。原油が出直ったことや、ウクライナ穀物生産減観測が支援材料。作付け進捗が遅れるとの思惑も買い材料となった。大豆は、17ドル水準で上値が抑えられた。ウクライナ情勢の悪化に伴う油糧種子の供給不安は根強いものの、米国の作付拡大が見込まれているうえ、ロシア、ウクライナの両国が世界第1位、第2位の生産量を誇るひまわり種子も、油糧種子全体の供給において占める割合は10%にも満たない事もあり、油糧種子の供給不足に対する警戒感は大コーンほどの高まりは見られていない。
- 先週末のシカゴ穀物は、グッドフライデーで休場。
- CFTC建玉明細(4/12現在)によると大豆の大口投機玉は、198,295枚の買い越し。前週(198,924枚の買い越し)から縮小。コーンは、495,581枚の買い越し。前週(487,073枚の買い越し)から拡大。

【今週見通し・戦略】

- 週間作物進捗報告(4月10日までの週)
 - コーン: 作付け: 2%(前週2%、前年4%、平年3%)
 - 冬小麦: 「良」以上: 32%(前週 30% 前年53%)
 - 「劣」以下: 36%(前週 36% 前年17%)
- 低在庫率での天候相場入りで、ロシア・ウクライナ産の懸念もある中、天候相場初期段階では、押し目買い主体で対処したい。夏場の天候次第では、暴騰もあり得る地合いで、レイショニング(価格高騰に伴う需要減少)が起きるまでは、買い戦略継続。トレーリングストップを用いながら利を伸ばしていく戦術。

当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはおりますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

週間展望(4/18～4/24)

～ 原油市場(ドバイ原油・CME原油指数) ～

調査課

菊川 弘之

【前週レビュー】

調整入り



- 先週レポートで「NY原油(5月限)は、世界的に供給不足が続いていることからネックライン(3/15安値:92.2ドル)は維持しているものの、ネックラインを明確に割り込むと、ダブルトップが意識されテクニカル的な下押し圧力が出るかもしれない。その場合、一目均衡表からは、N=82.32ドル、V=67.76ドル、E=57.88ドルが下値目標値としてカウント可能。ただし、NY原油の4月の月間騰落率は、買い方優勢で、テクニカル的な売りから出た安値は、米ドライブシーズンのピークを迎える夏にかけての買い場となる可能性も。新たな材料が出てこなければ、夏場にかけて、100ドルを挟んだ高値保合がメインシナリオ。2021年12月安値～2022年3月高値までの上昇に対する61.8%押しは86.4ドル。同水準は価格帯別出来高の厚い支持線」とした。先週のNY原油(5月限)は、ウクライナ軍がロシアの民間施設を攻撃したことが相場を押し上げた。プーチン露大統領はウクライナがロシアに対する攻撃を止めない場合、キーウを再攻撃すると警告。
- 欧州連合(EU)が段階的なロシア産石油の禁輸に向かっていていると伝わったことも支援要因。国際エネルギー機関(IEA)月報で5月のロシア産の石油供給量が3月に比べ日量300万バレル減の見通しを示していた。
- OPECに増産を求める欧州連合(EU)との11日の協議で、バルキンドOPEC事務局長が「現在の需要見通しを考慮し、(ロシア産原油の)大規模な供給不足を補うのはほぼ不可能だ」と述べた。最近の原油相場の変動は「OPECが制御できるファンダメンタルズの問題ではない」と増産に消極的な姿勢も示した。
- 週末のNY原油(5月限)は、グッドフライデーで休場。CFTC建玉明細(4/12現在)によると大口投機玉は、304,778枚の買い越し。前週(308,594枚の買い越し)から縮小。

当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

週間展望(4/18～4/24)

～ 原油市場（ドバイ原油・CME原油指数）～

調査課

菊川 弘之



【今週見通し・戦略】

- 祖国防衛の日(2/23)に合わせるかのように始まったウクライナ侵攻が、対独戦勝記念日(5/9)までに停戦するのではないかと期待も一部であるが、ロシア軍が「ルガンスク人民共和国」を実効支配する可能性は高いものの、「ドネツク人民共和国」に関しては、ウクライナ軍は9万人を投入し、大量のコンクリートで要塞化を進めており、ロシア軍がウクライナ軍を「ドネツク人民共和国」から完全に排除するためには、少なくとも2ヵ月がかかるとの見方が優勢だ。
- 今後、要注意なのが、リトアニア(NATO加盟国)との関係。リトアニアはロシアとの陸上国境(飛び地であるカリニングラード州)を閉ざそうとしている。これは、ロシアとの協定違反であるとともに、ロシアの西方面における安全保障上の死活的利益に直接かかわってくる。リトアニアがカリニングラード州を陸上封鎖しようとするなら、ロシアは力でそれを阻止することになる。ウクライナはNATO加盟国ではないが、リトアニアはNATO加盟国で、ロシアから侵攻された場合、軍事同盟としてNATOは参戦義務がある。
- 現時点では時間は掛かるが最悪の事態(欧州大戦)に陥ることなく、ロシアがウクライナの一部領域を併合することで停戦するというのが市場コンセンサスだが、仮に停戦となったとしても、欧米サイドとロシア・中国サイドの分断は、ドル離れと共に深まっていくだろう。冷戦終了後のグローバリゼーションで国境の壁は低くなり、安価な労働力の普及でインフレは抑えられたが、世界の分断で物価高時代に逆戻りしそうだ。現在、世界で起きているインフレの主因は、通貨の過剰発行(過剰流動性)でなく、流通システムにボトルネックが生じている事や、供給側の要因だ。需給構造変化で進むインフレは、米連銀がQTや利上げによって需要側の対策をやっても収まらない。

ロシア産減産の影響は
4月から本格化

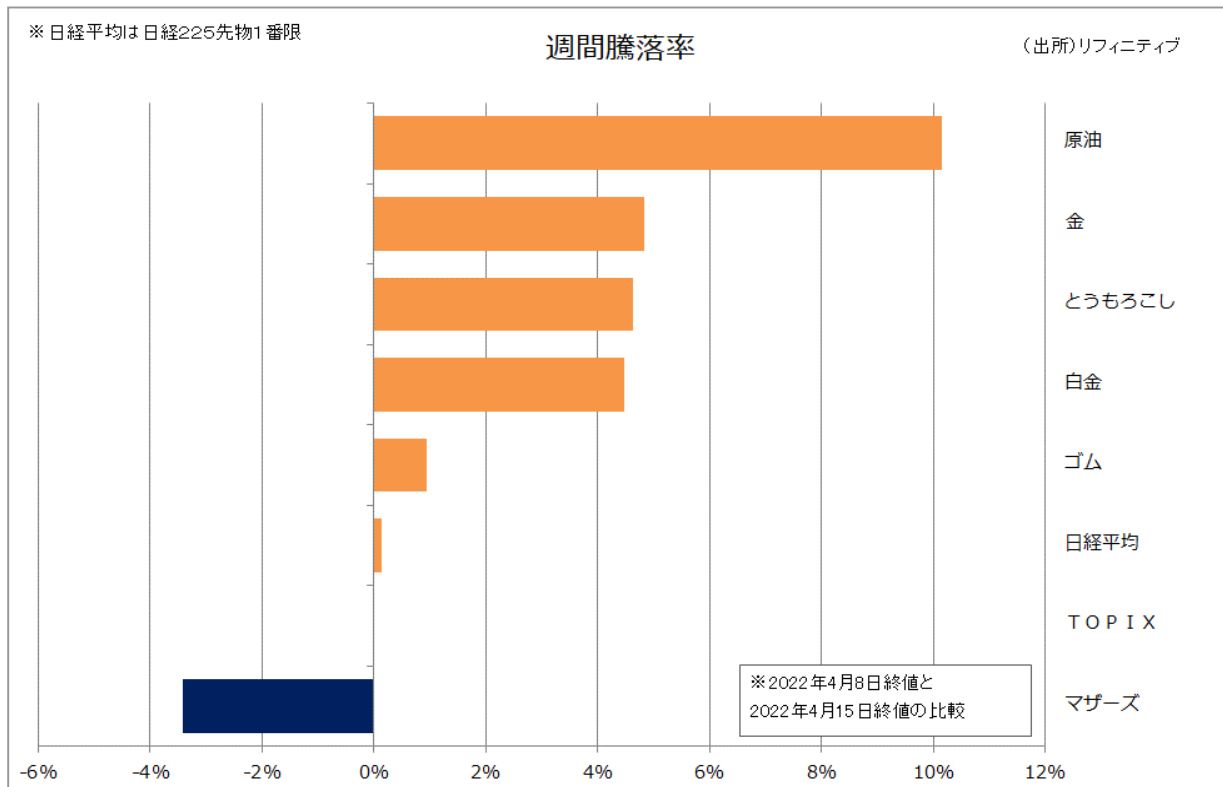
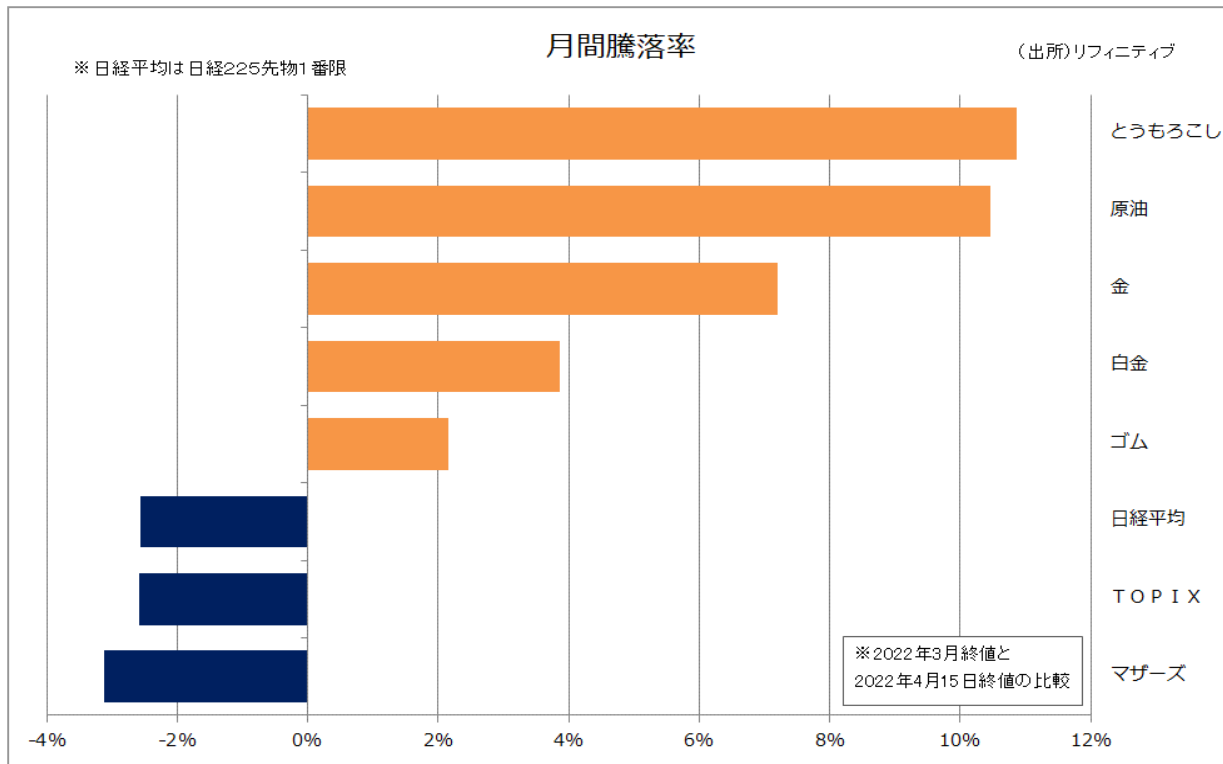
当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

【週間行事予定(4/18~4/24)】

日付	時刻	国名	対象	経済指標・行事予定	前回	事前予想
4月18日(月)	11:00	中国	3月	固定資産投資(前年比)	12.2	
	11:00	中国	3月	鉱工業生産(前年比)	7.5%	5.5%
	11:00	中国	3月	小売売上高(前年比)	6.7%	0.7%
	11:00	中国	Q1	国内総生産(GDP)(前年比)	4.0%	4.4%
	11:00	中国	Q1	国内総生産(GDP)(前期比) 季調値	1.6%	0.6%
	23:00	米国	4月	NAHB 住宅市場指数	79	77
4月19日(火)	20:00	ユーロ圏	3月	準備資産総額	1,091.82(十億)	
	21:30	米国	3月	建設許可件数	1.865(百万)	1.830(百万)
	21:30	米国	3月	住宅着工件数	1.769(百万)	1.750(百万)
4月20日(水)	8:50	日本	3月	輸出(前年比)	19.1%	
	8:50	日本	3月	輸入(前年比)	34.0%	
	8:50	日本	3月	貿易収支	-668.3(十億)	
	15:00	ドイツ	3月	生産者物価指数(PPI)(前年比)	25.9%	27.9%
	23:00	米国	3月	中古住宅販売戸数	6.02(百万)	5.80(百万)
	23:00	米国	3月	中古住宅販売増減率	-7.2%	
	納会	米国	---	NY原油2022年5月限納会		
4月21日(木)	18:00	ユーロ圏	3月	EU 基準消費者物価指数(HICP) 改定値(前年比)	7.5%	7.5%
	18:00	ユーロ圏	3月	EU 基準消費者物価指数(HICP)(食品・エネルギー・酒・タバコ除) 改定値(前年比)	3.0%	3.0%
	19:00	英国	4月	CBI 小売売上高	9	
	19:00	英国	4月	CBI 動向・受注	26	
	21:30	米国	月11日, 週	新規失業保険申請件数	185(千)	175(千)
	21:30	米国	月4日, 週	継続失業保険受給総数	1.475(百万)	1.450(百万)
	21:30	米国	4月	フィラデルフィア連銀 業況指数	27.4	20.0
4月22日(金)	0:00	ユーロ圏	4月	消費者信頼感指数 速報値	-18.7	-20.0
	8:30	日本	3月	全国コア消費者物価指数(CPI)(前年比)	0.6%	
	8:30	日本	3月	全国消費者物価指数(CPI) 総合(前年比)	0.9%	
	16:00	英国	3月	小売売上高(前年比)	7.0%	2.8%
	16:00	英国	3月	小売売上高 除燃料(前年比)	4.6%	0.6%
	16:30	ドイツ	4月	S&P グローバル 製造業購買担当者景気指数(PMI) 速報値	56.9	54.4
	16:30	ドイツ	4月	S&P グローバル サービス業購買担当者景気指数(PMI) 速報値	56.1	55.5
	16:30	ドイツ	4月	S&P グローバル 総合購買担当者景気指数(PMI) 速報値	55.1	54.0
	17:00	ユーロ圏	4月	S&P グローバル 製造業購買担当者景気指数(PMI) 速報値	56.5	54.5
	17:00	ユーロ圏	4月	S&P グローバル サービス業購買担当者景気指数(PMI) 速報値	55.6	55.0
	17:00	ユーロ圏	4月	S&P グローバル 総合購買担当者景気指数(PMI) 速報値	54.9	54.0
	17:30	英国	4月	総合購買担当者景気指数(PMI) 速報値	60.9	59.1
	17:30	英国	4月	製造業購買担当者景気指数(PMI) 速報値	55.2	54.0
	17:30	英国	4月	サービス部門購買担当者景気指数(PMI) 速報値	62.6	60.3
	22:45	米国	4月	S&P グローバル 総合購買担当者景気指数(PMI) 速報値	57.7	
	22:45	米国	4月	S&P グローバル 製造業購買担当者景気指数(PMI) 速報値	58.8	58.2
	22:45	米国	4月	S&P グローバル サービス業購買担当者景気指数(PMI) 速報値	58.0	58.0
	4:30	米国	前週分	CFTC建玉明細		
	納会	日本	---	ゴム(RSS3)先物2022年4月限納会日		
	納会	日本	---	金ミニ・白金ミニ2022年4月限取引最終日		
4月23日(土)	8:01	英国	4月	Gfk 消費者信頼感指数		
4月24日(日)						

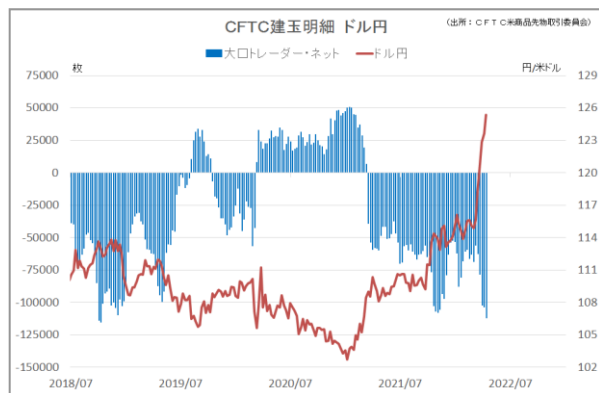
当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に十全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

【騰落率(月間・週間)】

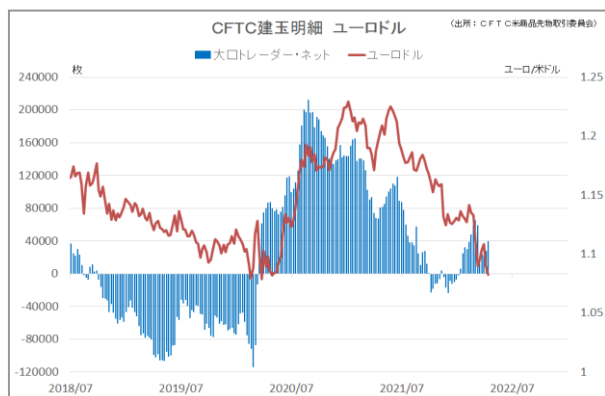


当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

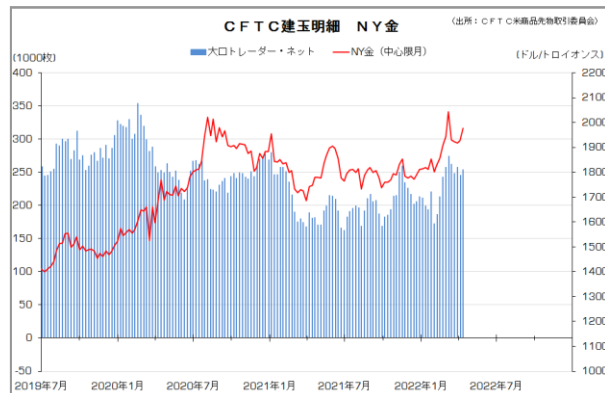
【CFTC建玉明細】



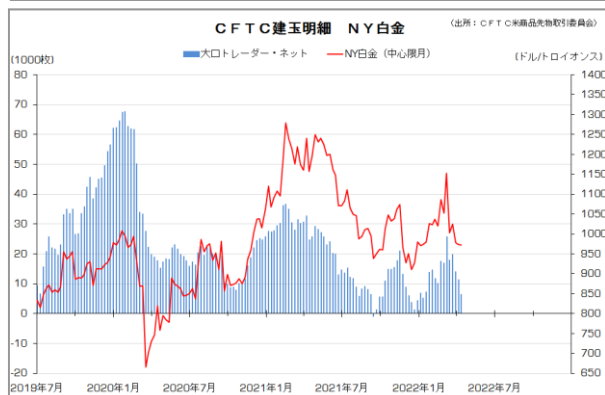
ドル円				
日付	大口投機玉			終値
	ロング	ショート	差引枚数 (ロング - ショート)	
2022/3/15	34,016	96,356	-62,340	118.28
2022/3/22	36,676	115,158	-78,482	120.8
2022/3/29	15,274	117,405	-102,131	122.84
2022/4/5	14,583	118,412	-103,829	123.6
2022/4/12	9,925	121,752	-111,827	125.35
前週比	-4,658	3,340	-7,998	1.75



ユーロドル				
日付	大口投機玉			終値
	ロング	ショート	差引枚数 (ロング - ショート)	
2022/3/15	202,040	183,246	18,794	1.0951
2022/3/22	207,051	183,208	23,843	1.1027
2022/3/29	200,043	178,669	21,374	1.1085
2022/4/5	210,914	183,544	27,370	1.0903
2022/4/12	221,645	182,585	39,060	1.0826
前週比	10,731	-959	11,690	-0.0077



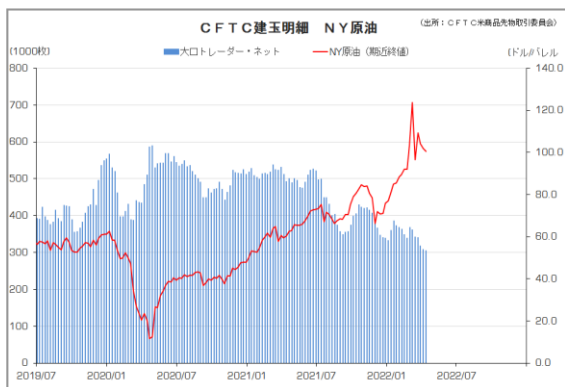
NY金				
日付	大口投機玉			中心限月 終値
	ロング	ショート	差引枚数 (ロング - ショート)	
2022/3/15	346,731	84,943	261,788	1929.7
2022/3/22	328,660	80,628	248,032	1921.5
2022/3/29	327,632	70,036	257,596	1918
2022/4/5	324,570	79,029	245,541	1927.5
2022/4/12	338,164	83,877	254,287	1976.1
前週比	13,594	4,848	8,746	48.6



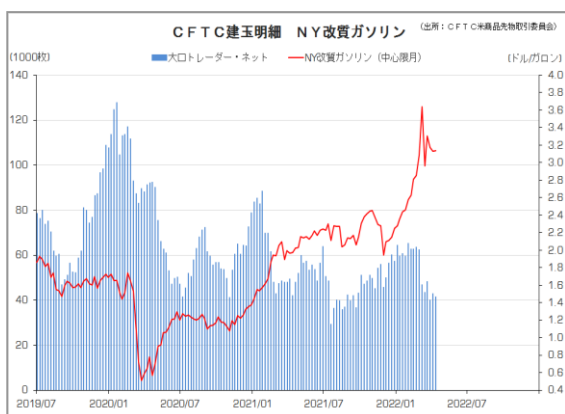
NY白金				
日付	大口投機玉			中心限月 終値
	ロング	ショート	差引枚数 (ロング - ショート)	
2022/3/15	33,833	15,901	17,932	1002.5
2022/3/22	32,184	12,369	19,815	1025.1
2022/3/29	29,585	15,584	14,001	978.8
2022/4/5	28,827	17,537	11,290	973.1
2022/4/12	28,544	22,129	6,415	972.4
前週比	-283	4,592	-4,875	-0.7

当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

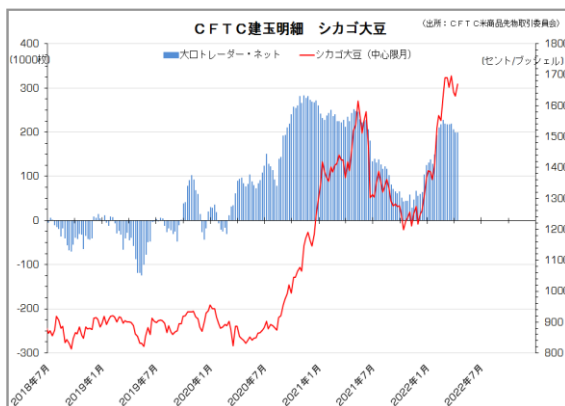
【CFTC建玉明細】



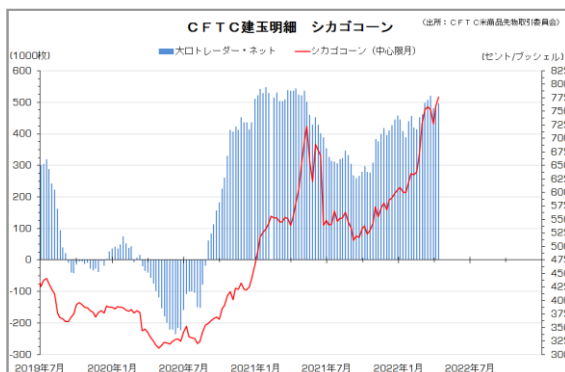
NY原油				
日付	大口投機玉			期近終値
	ロング	ショート	差引枚数 (ロング - ショート)	
2022/3/15	444,601	102,786	341,815	96.44
2022/3/22	436,560	96,591	339,969	109.27
2022/3/29	420,097	101,366	318,731	104.24
2022/4/5	413,132	104,538	308,594	101.96
2022/4/12	411,978	107,200	304,778	100.6
前週比	-1,154	2,662	-3,816	-1.36



NY改質ガソリン				
日付	大口投機玉			期近終値
	ロング	ショート	差引枚数 (ロング - ショート)	
2022/3/15	76,383	32,781	43,602	2.9657
2022/3/22	78,644	30,274	48,370	3.3046
2022/3/29	74,554	34,352	40,202	3.1767
2022/4/5	75,111	32,148	42,963	3.1311
2022/4/12	76,062	34,636	41,426	3.1375
前週比	951	2,488	-1,537	0.0064



シカゴ大豆				
日付	大口投機玉			中心限月 終値
	ロング	ショート	差引枚数 (ロング - ショート)	
2022/3/15	265,949	48,350	217,599	1658.75
2022/3/22	265,191	46,555	218,636	1696.50
2022/3/29	253,726	47,257	206,469	1643.00
2022/4/5	243,805	44,881	198,924	1631.00
2022/4/12	247,765	49,470	198,295	1670.25
前週比	3,960	4,589	-629	39.25



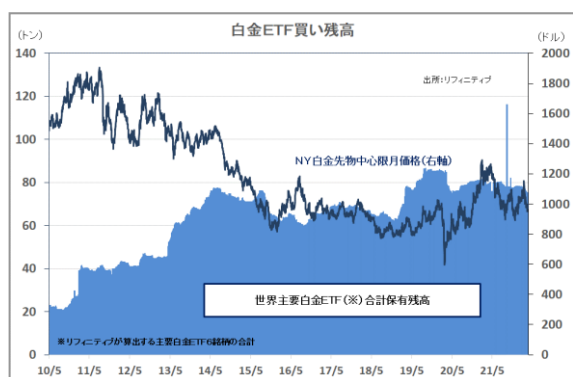
シカゴコーン				
日付	大口投機玉			中心限月 終値
	ロング	ショート	差引枚数 (ロング - ショート)	
2022/3/15	571,419	64,213	507,206	758.00
2022/3/22	582,844	63,488	519,356	753.00
2022/3/29	552,536	70,444	482,092	726.25
2022/4/5	558,043	70,970	487,073	759.75
2022/4/12	572,527	76,946	495,581	776.25
前週比	14,484	5,976	8,508	16.50

当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

【金・白金ETF】

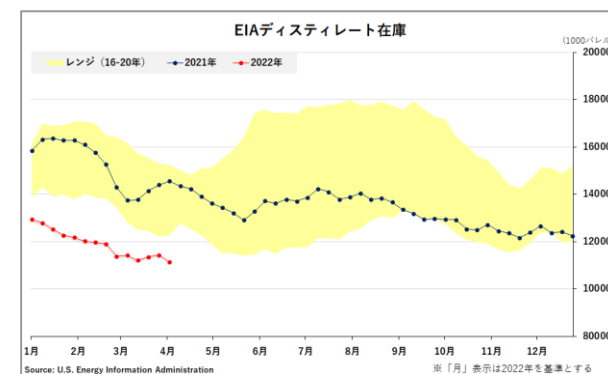
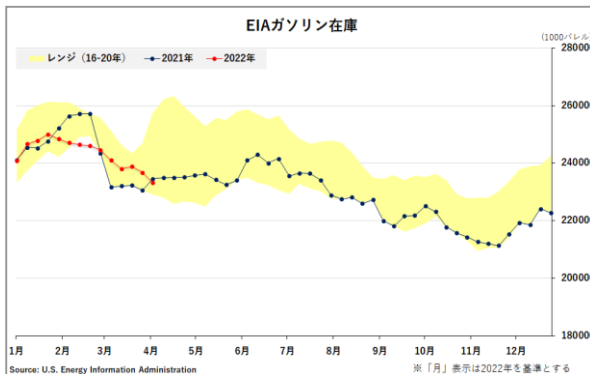
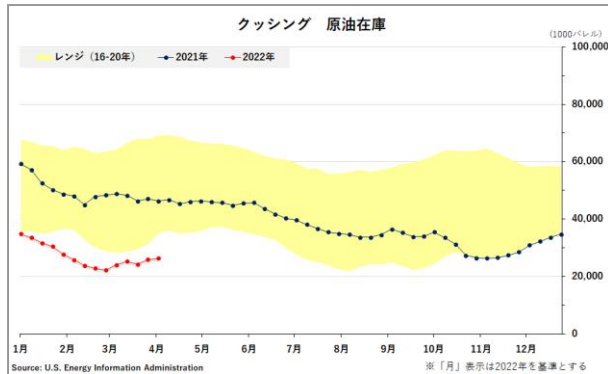
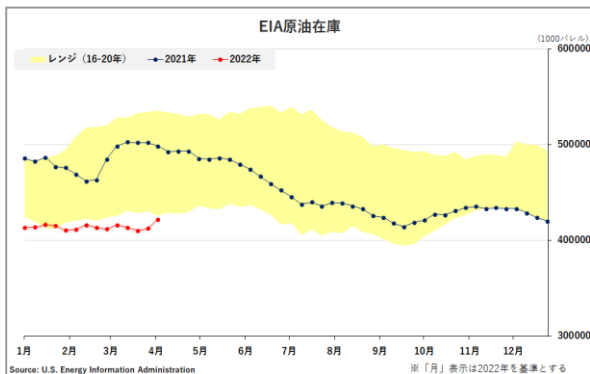


日付	金保有高(トン)	前営業日比
2022/4/14	1099.49	-4.93
2022/4/13	1104.42	+11.32
2022/4/12	1093.10	+2.61
2022/4/11	1090.49	±0
2022/4/8	1090.49	+3.19
2022/4/7	1087.30	±0
2022/4/6	1087.30	±0



日付	白金保有高(キログラム)	前営業日比
2022/4/14	75,241.17	-7.09
2022/4/13	75,248.26	-0.12
2022/4/12	75,248.39	+18.26
2022/4/11	75,230.13	-0.19
2022/4/8	75,230.32	-0.12
2022/4/7	75,230.44	-0.16
2022/4/6	75,230.60	-0.16

【EIA在庫】



当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

【留意事項】

弊社が取り扱っている金融商品等にご投資いただく際には、各商品等に所定の手数料や諸経費等をご負担いただく場合があります。また、各商品等には価格の変動等により損失を生じる恐れがあります。商品や取引によっては、投資元本を超える損失が発生することがあります。各商品等ごとに手数料等及びリスクは異なりますので、各商品等へのご投資にかかる手数料等及びリスクについては、当該金融商品等の取引概要やリスク説明等、契約締結前交付書面、目論見書、お客様向け資料等を十分にご確認ください。

<商号等>日産証券株式会社（〒103-0014東京都中央区日本橋蛸殻町1-38-11）

関東財務局長（金商）第131号金融商品取引業者商品先物取引業者

<加入協会>日本証券業協会、日本商品先物取引協会、一般社団法人金融先物取引業協会

当資料は情報提供を目的としており、弊社取扱商品に係る売買を勧誘するものではありません。内容は、正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い致します。